

月刊 おかじょうき

ね
と
おかげさまで
ろ
の
と
あ
す
な
み
ね
す
こ
わ

<http://www.okajoki.com/>



川柳ステーション 2026

2026

8

川柳ステーション 2026	20
無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果 十和田たてがみ川柳会 6 月句会報	52
■チャッピーの人間観察録「待 AI 室」	47
■会員エッセイ「駅ノート」 芝岡かんえもん	50
■大会レポート 「らくだに乗ってきました。」 ⑤ Sin	55
Infomation	56 ～

月刊おかじょうきを

ど～～しても紙で見たい！
というあなたへ

2 月号から紙の柳誌発行を止め、電子柳誌だけの発行に移行しましたが、皆さんには「絶対、電子だけで見てください！」と言っているわけではありません。経済的に余裕のある方は（といっても月数百円くらいですが笑）、製本された形ではないですが、紙に印刷して読む方法もありますので、以下の方法の中から、ご自身の周辺の環境に合った方法でお試してください。

【方法①】PC とプリンターで印刷する

お家にパソコンとプリンターがあれば、電子柳誌をお好きな大きさの用紙に印刷すれば OK です。

【方法②】スマホとセブンイレブンで印刷する

右のアプリを使って、お近くのセブンイレブンのコピー機でスマホで印刷することが出来ます。



【方法③】スマホと近くのコンビニで印刷する

右のアプリを使って、お近くのコンビニ（ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、ポプラ）のコピー機から印刷することが出来ます。



【コンビニでのプリント参考価格】

A3 モノクロ 1 ページ：約 20 円／ A3 カラー 1 ページ：約 100 円
見たいページだけ印刷して節約するのもアリですね！

カンテラ

むさし

川柳ステーション2026をどうにか無事に終える
ことができました。

県内はもとより、遠くは北海道、大阪から駆けつけて
くださいました皆様、誠にありがとうございました。
樋口由紀子さんが会場のどこかで笑いながら見てい
たような気がします。

来年もどうぞよろしく願います。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

ココイチに負けたカレーを慰める

城後朱美

そうすればそうなるようになっている

鳴海賢治

鳴海賢治さん、そうなんですよ。世の中って、そ
うすればそうなるようになっていくんですよ。とい
うことで、わたしはこれからどうなるのでしょう（笑）

B群

えんどうのすじ取りある日戦争に

木下香苗

「じゃあまた」と浅い傷ではなくなった

斎藤泰子

ヒバクシャの散らばる地球まだ青い

亥の一

紫陽花の赤の匂いのカタツムリ

戒 踊兵

改行の位置で止まったままの夜

夏草ふぶき

考えが琵琶湖くらいになれば春

米山明日歌

五寸釘次々廟となる乳房

月波与生

撒き水きらきら舞妓はんの鱗

宮井いずみ

人が死ぬあつという間に人が死ぬ

須藤しのすけ

須藤しのすけさん、無人駅にこの句を4句連続で

並べるのは暴力です（笑）5句目に『君のためなら
死ぬる』って言われても』を置くのも暴力です。違う
かな（汗）

もう嘘はおよしと流すところてん

峯島 妙

それってさ野菜づくりは理系だよ

坂本清乃

大人のデート 寿司屋は雨予報

一帆

ヒトの波ひろがる雲を畳んでる

田中 薫

その気なら真正面からおいでなさい

まみどり

持ち歌のように誦してる梁塵秘抄

葉 閑女

プロローグ書きなおしますごきげんよう

吉田州花

あなたの声はタオルみたいに乾かない

奥田悦生

カントリー・ロードだいいや葉脈だ

嵯峨山登

家の近くのハートの水たまり

土田雅子

雨つづく左脳でブランコ揺らしてる

熊谷冬鼓

タヤけになろう左右にゆれながら

守田啓子

C群

下駄箱がホシシンイチと名乗り出す

nes

語尾がこんやくで動詞も腰抜けで

きさらぎ彼句吾

あつちつち おまえがはねるフライパン

芝岡かんえもん

まだ先があると蛇の死体をまたぎ行く

柳本恵子

横顔が雲に似ている行旅人

小野五郎

nesさん、「ホシシンイチ」って、『ほし・しんい

ち【星新一】小説家。本名、親一。東京生れ。東大卒。

日本でのSF・掌編小説の確立者。作「妄想銀行」「祖

父・小金井良精の記」など。（1926～1997）（広辞苑第七版）

ですよ。ということは、nesさん家の「下駄箱」

さんが「おれは、SF作家である」と言っているんで

すね。不敵な「下駄箱」だなあ（笑）

きさらぎ彼句吾さん、あのそのええつと…、「こん

にやく」ってこんな使い方もできるという見本みたい

な句ですね。「腰抜け」の「動詞」ってのも初めてお

目に掛かりました。これって、実感句なんでしょうね。

誰のどんな句を言ってるのかな…。

芝岡かんえもんさん、「フライパン」でにんげんを揚げるという遊びは犯罪です。不同意何とか罪で逮捕されますのでご注意ください！

柳本恵子さん、凄い絵ですね。「蛇の死体を跨ぐとはどういうことですか？」とAI様にお尋ねしたところ、『古くから蛇は「神の使い」や「弁財天の化身」など、強い霊力を持つ生き物として敬われてきました。そのため、命を落とした蛇の死体を跨ぐ行為は、神聖なものを軽視する「不敬な行為」と見なされ、祟りや不運を招くと言われている』と見なされ、祟りや不運を生「金運」「繁栄」の象徴でもあります。道を塞ぐ蛇の死体を乗り越えて前へ進む（道を切り拓く）というポジティブな解釈から、「困難を乗り越えて幸運を掴む」や「金運・ステップアップの暗示」と捉えられることもあります。』という二つの解答がありました。この句は後者がベースになっているんですね（笑）
小野五郎さん、「行旅人」って旅するひとのことだけど、この句の場合は五郎さんのことでしょうか？この句で謎がひとつ解きました（笑）

「おかじょうき」に乗って川柳の旅へ。

— おかじょうき川柳社 会員募集 —

【会員になるとこんな特典があります】

- ☐ 月例会や会員雑詠集「無人駅」に投句できます！
→ スマホやタブレットでいつでもどこでもオンラインで投句できます。
- ☐ 川柳データベースに作品が掲載されます！
→ 「川柳データベース」であなたの作品を検索することができます。
- ☐ 当柳社が主催する誌上句会等が参加費無料になります！
→ 「杉野十佐一賞」や誌上句会「0 番線」に無料で投句ができます。
- ☐ 青森の美味しい特産品がたまにもらえます！ etc.

年会費 **4,000円**!!

【振込先】郵便振替：No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社

おかじょうき川柳社 会員雑詠集

無人駅

★無人駅7月月間賞

貌のない言葉だ「愛してる」なんて

米山明日歌

小松憲一【こまつけんいち・宮城県亘理町】

団塊の我等雪崩を打つように
八十年かげかたちなく地に還る
看板に残る哀しい文字銀座
団塊の独りが集う三途の川
逝きし世の面影団塊昭和編

先月号の
お気に入り

字足らずと気付けた影と酌み交わす きさらぎ彼句吾
その影 いいですね 酌み交わす仲 羨ましい限り。

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

どうかしていましたバカな恋でした
「じゃあまた」と浅い傷ではなくなつた
小細工はしないわ雨の日は泣くわ
バスに揺れ子供になつてゆく時間
ひなた水いつも宙ぶらりんのまま

先月号の
お気に入り

厄介が首をかしげて立っている 熊谷冬鼓
厄介が「さあ、あなたはどつする?」と私に問うている。
どうしよう?

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

朝採りのキュウリ抱えて友が来た
フキの皮すーと剥けた心地好き
ナスキュウリヤマセが吹いて花芽落ち
転けないようにつかえ棒は鋏にする
それつてさ野菜づくりは理系だよ

先月号の
お気に入り

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

クロバー刈りじやなかつたブドウ狩り
あら不思議ダイヤが10個凧になる
積乱雲がポップコーンになつた夏
カントリー・ロードだいいや葉脈だ
近づけばサイコロ・シテイ蜃気楼

先月号の
お気に入り

キャンパスに人魚の鱗落ちていた 木下香苗
フレッシュです。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

空つぽの前頭葉から蛇を出す
闊達な耳は鰻の黒子です
日がな一日畠に夢を蒔いてます
なんまんだぶ五体投地の千羽鶴
千円でやる雨のベンチの待ちぼうけ

先月号の
お気に入り

訃報の訃に撃たれチューリップ棒立ち きさらぎ彼句吾
毎日のように訃報の訃に撃たれしなだれています

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

寄り道の匂うホクロを好きになる
もつと淡くてよいのなら人でいる
熱湯をかけてあなたを剥がします
あつちつち おまえがはねるフライパン
列の最後にもう人間はいなかった

先月号の
お気に入り

カステラのざらめくらのオナナです 峯島 妙
ご謙遜で謙遜ー舌が甘味を感じてる。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

高尾山のニュースの中にいた私
東京を歩けた靴がほつとする
探したりしない都会に慣れた月
ココイチに負けたカレーを慰める
火星人になつてしまつて狼狽える

先月号の
お気に入り

次ページの半分ほどで終わる恋 峯島 妙
とりあえず、私も恋を始めよう。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

「でんでらりゅうば」のクーポン券が余つてる
雨以上でも雨以下でもない ふしだら
秒針がためらっている せいに して
クラムボンはいそがしすぎていそがしい
スポンジで泡立っている「こーんこん」

先月号の
お気に入り

青の補色だったから惚れてしまつ 四ツ屋いずみ
ありがとございます。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

人が死ぬあつという間に人は死ぬ
人は死ぬあつという間に人が死ぬ
人が死ぬあつという間に人が死ぬ
人は死ぬあつという間に人は死ぬ
「君のためなら死ぬる」って言われても

先月号のお気に入り
「人間なんて」 学食のカレーフェア 木下香苗
人類規模の壮大な絶望 vs お腹へこべこ学食のカレー。
もちろん食欲の優勝！

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

禁足の地へ踏み入れる手の温み
夕映えに溶けゆく意志を信じよう
風が止み昼寝をしてもいいですか
逆鱗に触れないように拭き掃除
人間がいなけりや今日も生きられた

先月号のお気に入り
絶好調そして明日は絶不調 城後朱美
そういう日ってありますね。けど翌日は「絶不調そして明日は絶好調」にしたいものです。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

大丈夫冬はまだ先二度寝する
のんびりの昼寝に嫉妬ゲリラ雨
ロボットと楽しく暮らす夢もいい
脱皮して向かうスマホはおもちや箱
断捨離の助っ人カメに頼んでる

先月号のお気に入り
くよくよをリュックに詰めて出かけよう 渡邊こあき
誰かにあげるの、それとどこかに捨てるんですか？。

土田雅子【ちただまきこ・青森県青森市】

それからのホルムズ海峡の夕陽
たつぷりと夕焼け含んでから脱皮
懸命に生きる人ばかりに試練
家の近くのハートの水たまり
自問自答のハンカチ落とし 続く：

先月号のお気に入り

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

何願うただ悶々と爪を噛む
ヒトの波ひろがる雲を畳んでる
ぴよんぴよんと行進曲を背に月へ行く
ただの人だからこそ幸せなんだ
心配を母に足したら老化です

先月号のお気に入り
桜散る 朝散るこんな日に出逢う 吉田州花
人生いろいろで溜め息が、。

月波与生【つきなみよじょう・青森県大鰐町】

牛の標本 暗室で鳴るピアノ
五寸釘次々廟となる乳房
屠殺場の天井が飼う嘘の姉
楽園が牛頭のマスクを脱いでいる
わが肉の深きところに牛鳴けり

先月号のお気に入り

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

海に返す人差し指で弾くピアノ
歯ざしりで波が碎ける海洋葬
温暖化着たり脱いだり笑ったり
改行の位置で止まったままの夜
一日のボリュームが減る忌引き明け

先月号のお気に入り
私が居ていい隙間ありますか 斎藤泰子
ちょっとした隙間あります、居心地いいです、お貸ししましょうか？

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

山の背を歩き続けた三拍子
そうすればそうなるようになって
それもそうだが雲には雲の事情ある
ブルースにのって買い食いしてしま
ものまねがじょうずさぎのしつぽかな

先月号のお気に入り
自然体でモグラになっていくのだな 笹田隆志
「自然体」の出だしがよかった。

nes【ねす・兵庫県神戸市】

名付け親黒く半回転のナチス
下駄箱がホシシンイチと名乗り出す
めまいのあとのポリエステルを姉と呼ぶ
しかし十時／咳止め薬の退屈
にわとりがにわとりを産むコロッセオ

先月号の
お気に入り

舟木小柳【ふなぎこりゅう・青森県青森市】

人類を電気ショックで初期化して
へソ出しの少女に「Hello」のタトゥー有り
悪人も善人も皆寿命まで
郭公の美声の裏にしたたかさ
父百歳息子杖つき喪主をする

先月号の
お気に入り

こんなにも重たい夕陽誰のせい
誰のせいなのか、とても気になります！
辻井洋子

まきこ【まきこ・青森県青森市】

悶々を晴れ晴れにするクリームパフェ
捕まえた後ろの君の首根っこ
どうにでもなれよとぐんぐん走り去る
行くあてもないのに待っている電車
あなたを入れるとほらね落ちこぼれ

先月号の
お気に入り

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

鳥になろうか風に乘ろうか欠伸
置き去りに慣れてしまった旅カバン
一人では何もできないなんてウソ
出来ないとやらないとでは似て非なる
その気なら真正面からおいでなさい

先月号の
お気に入り

どうなった私が捨ててきたセリフ
気にしない☒方がいと思うけど。
斎藤泰子

峯島 妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

憂鬱を晴らす目薬を垂らす
断捨離が苦手で元彼コレクション
もう嘘はおよしと流すところてん
旅先のすき間時間のカウンター
またひとり置いてけぼりの夜啼き鳥

先月号の
お気に入り

大阪の雨はちよっぴり温かい
それは良かったです！
須藤しのすけ

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

汀には暑がり寒がり悲観主義
眠っていたのか胃の中だったのか
バケツからもくもく猥奇小説
撒き水きらきら舞妓はんの鱗
ひまわりは迷路の果ての覗き窓

先月号の
お気に入り

厄介が首をかしげて立っている
厄介百回自然界、あゝあ
熊谷冬鼓

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

学習をした熊の事情も分かるけど
お願いだ熊さんあちら林の方へ
熊鍋でおびき出そうか森の熊
今すぐに夢の続きへワープする
昨日の尾を引きずったまま朝になる

先月号の
お気に入り

くよくよをリュックに詰めて出かけよう
どこへ行くのかな
渡邊こあき

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

夕やけになろう左右にゆれながら
揺すられるニセアカシアのこんもりに
抱くあやす寝かす千回もういいかい
風になる幾千の傷光らせて
木になったのは置き去りのさようなら

先月号の
お気に入り

惚れるとは無期懲役に服すること
雪原野無期懲役の陽が登る
北野岸柳氏の名句を思い出
しました
むさし

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

色即是空眠れむ夜を渡る舟
美しい梅だけで作る梅サワー
まだ先があると蛇の死体をまたぎ行く
退屈でイソップの結末変えてみる
リハーサルどうりに笑って見せる花

先月号のお気に入り
向こう岸ばかりに花の咲く四月
比べたらいけないのですが、目に入って困ります。
米山明日歌

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

窓際族を集め雨夜の品定め
持ち歌のように誦してる梁塵秘抄
盗み食い情状酌量とはゆかぬ
マダックスもルーズベルトも野球です
待たないと決めた夜更けのコークハイ

先月号のお気に入り
真実を見るか雨音受けとるか
どちらも捨て難いけど、今日はシヨパンの気分て雨音にしよう。
宮井いずみ

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

あつさりと逝つてしまつて今日は晴れ
プロローグ書きなおしますぐきげんよう
貴女のようにパンプスでお別れに
桜さくら咲くも枯れるも陽の味方
残された心を磨きすぐ逝くわ

先月号のお気に入り
花冷えのよき色のうち蝶五郎
ほっこりさせていただきました！
笹田隆志

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

山椒を摘んでピリリと雨祓い
ルピナスの地上へ虹を描いている
弟との小さな齟齬は喜劇である
満月の死ねば終わりといいてくる
日傘雨傘七つ道具に入れてある

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

スーパーまでつけてエルニーニョつたら
自動再生で見続けた金魚売り
もつとはちやめちやでいいハチャトゥリアン
梅酒の砂糖とけた頃にまたおいで
呼び捨てで呼ばれた気がした朝白け

先月号のお気に入り
惚れるとは無期懲役に服すること
まさに、惚れるのは命がけですね。
むさし

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

考えが琵琶湖くらいになれば春
想い出を並びかえてる涸れた夜
犬の目で待っているのは鍋の底
線引いて私を誘う人がある
海鳴りがわたしの夏を尖らせる

先月号のお気に入り
前歯から少しずつ描く肖像画
前歯から描くって勇氣いります。でも少しずつとあるの
で、慎重なんですね。
月波与生

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

ラベンダー色薄くして丘は初夏
あの人に会える気がする栗の花
摘果前仲よく揺れるリングの実
選べずに選んでしまう蕎麦・丼セット
駅ピアノぽつん本日休みです

先月号のお気に入り
訃報の訃に撃たれチューリップ棒立ち
チューリップ棒立ち、彼句吾さんの衝撃の大きさがよく
わかりました。
きささぎ彼句吾

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

太陽がいつぱい酷暑なんのその
サッカーに囲まれ空豆をガシッ
お豆腐が見つかったのは冷凍庫
荒れる世から少年少女隔離せよ
肩を叩かれて正気に戻る神

先月号のお気に入り
緞帳とブルーシートを間違える
ブルーシート、有りそつです。
守田啓子

一帆【いちほ・秋田県秋田市】

栄養が届かない髪前頭葉
大人のデート 寿司屋は雨予報
AIに思考停止と告げられる
真っ当に出したつもりの請求書
欠席のハガキに少し愛乗せる

先月号のお気に入り
どうなった私が捨ててきたセリフ
きつと誰かが拾ったくれた箸
斎藤泰子

亥の一【いのいち・青森県青森市】

じつとりと被爆の記憶乾かない
ヒバクシャの散らばる地球まだ青い
月の裏に届いた科学の裏の顔
韋駄天のミュトスを抑える指一本
AIの津波に備えるバベルの塔

先月号のお気に入り

戎踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

舌洗う少し噂に流されて
フェロモンが出てた右手に止まる蝶
千なんてニセアカシアの花の壁
今日は今日仕事へ向かうハナミズキ
紫陽花の赤の匂いのカタツムリ

先月号のお気に入り
修理してつきあってゆく薄い間
「私が居ていい隙間ありますか」も好き。とても透明な深い池を覗いているみたいです。
斎藤泰子

奥田悦生【おくだえつお・三重県伊勢市】

声ひとつ部屋の孤独を撫でている
ありがとう声に出したら泣けてくる
あなたの声はタオルみたいに乾かない
電話の声が善人のふり崩れだす
声だけで鍵を外した夜になる

先月号のお気に入り

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

横顔が雲に似ている行旅人
一晩中徘徊している四畳半
父の日の父を探しているのです
ネット難民の目をしたカメレオン
不夜城に映えるスマートラオオコンニャク

先月号のお気に入り

木下香苗【きのしたかなえ・滋賀県草津市】

えんどうのすじ取りある日戦争に
くたくたに煮込んだシャンソン長い夜
リング剥く黒い気持ちに寄り添って
逆向きに座るあの子は怖がり屋
真の愛小さくまとまっではいるが

先月号のお気に入り
夜の闇支配なさって清浄機
「なさって」が、なんだか得意げでかわいいです！
土田雅子

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

語尾がこんにやぐで動詞も腰抜けで
湿度マックス薔薇がしかける無言劇
曖昧模糊のもここの肌触り
マヨの上にマヨ盛り上げて褒め殺す
ハートマーク添えられたって嘘は嘘

先月号のお気に入り
右耳は聴くが左は聞かぬ耳
瀧尻善英
世渡り上手な右耳は揉み手しながら、本心の左耳は拒否…

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

雨つづく左脳でブランコ揺らしてる
ドクダミの白に騙されそうになる
雨垂れとめだかの稚魚を数えてる
迂回して青の匂いを嗅ぎに行く
雨やんで出来損ないが動き出す

先月号のお気に入り
きれいごときたないごとの三拍子
「きたないごと」って(笑)
S i n

むさし【むさし・青森県蓬田村】

金槌と睨み合ってる錆びた釘
湯加減はどうだと熊が聞きに来る
影に追われ走り続けている男
レベル5の雨が降ってる前頭葉
豚丼に星のサラダを追加する

無人駅は会員の自由な発表の場です。

未発表作品5句をお寄せください。

また、お手元の最新号から、お好きな作品とそれに対する簡単なコメントもお寄せください。

第5回らくだ川柳大会参加レポート



「らくだに乗ってきました。」⑤ Sin

（前号からの続き）

受付を済ませていると、森さんが挨拶に来てくれた。たぶん、久しぶりの遠方の大会だったせいかな、私も少し緊張していたのだろう。ふわふわしてて、何を話したのかも記憶にない（汗）

会場に入り、くんじろうさんに挨拶をし、配信の準備なのだろう、忙しそうに動き回る全郎さんにも挨拶をした。すると開口一番、「昨日の夜、てっきり晩ご飯のお誘いが来るのかと思ってました（笑）」とツッコまれた。

実は、全郎さんとはLINEでやり取りをしている時に、「前日の夜も付き合いますよ」と言ってもらっていた。けれども、私もおかじょうき川柳社の事務局として、大会の準備がどれだけ大変なのかはわかっていているつもりだ。ましてや前日は、何度も何度も頭の中でシミュレーションを繰り返す大切な時間でもある。だから私は、「ごめんなさい。大会の大変さは知っているので、前日はなるべく邪魔をしないようにしようと思って」とお詫びした。

もともと、前日の夜は、しんのすけさんとGPSも届かない地下のお店にいた、などとは、全郎さんには口が裂けても言えない。

選者席に案内される途中、物静かな若い男性が座っていたので、「もしかして、nesさんですか？」と声を掛けた。nesさんは最近、おかじょうき川柳社の会員になってくれて、毎月、雑詠や月例会にも投句してくれている。今回の旅で、ぜひ話をしたかった一人である。私の声掛けに、「Sinさんですか？ はじめまして、nesです」と丁寧に答えてくれた。「いつも、おかじょうきに投句していただいてありがとうございます」とお礼を伝え、自分の席へ向かった。

11時までまだ時間があるというのに、会場を見渡すと、すでにたくさん参加者が埋まっていた。みんな一生懸命、作句に向かっている。つい10分ほど前まで、ビールが飲める店を探して歩いていた私たちを、殺してしま

い。（つつく）

使ってますか？

登録作品数 9.4 万句を突破！

川柳データベース

<https://okajoki.com/db/>



川柳ステーション 2026

2026年7月4日(土)

青森駅前アウガ5階研修室



▼出席者 (49名：順不同)

広瀬ちえみ・野沢省悟・田中 薫・辻井洋子・滋野さち・渡邊こあき・吉田州花・まきこ・妹尾凜・須藤しんのすけ・芝岡かんえもん・熊谷冬鼓・宮井いずみ・浪越靖政・兵頭 Sin・一帆・笹田かなえ・夏草ふぶき・笹田隆志・斎藤泰子・葉 閑女・戎 踊兵・宮古菊池 京・小松憲一・ひらく・むさし

▼ご芳志拝受 (敬称略)

弘前川柳社・金木川柳の会・川柳ゼミ青い実の会・黒石川柳社・川柳らくだ・高瀬霜石・

小野五郎・守田啓子・嵯峨寛之・吉井若草・吉井みさき・米山明日歌・田中苑子・金子政子・全郎・葦乃原光晴・原口健二・高木まあこ・土田雅子・くんじろう・きさらぎ彼句吾・中子・三浦 蒼鬼・まみどり・西城一始・坂本清乃・白川 莫・藤田めぐみ・酒井かがり・

笹田かなえ

宿題『正』

大阪府大阪市 宮井いずみ選

【佳作】

そんなところで正座あしんめとりい
 フランスパン正しく立っているたおす
 筆順通りの愛撫なんてあくび
 「正しい」が群れると怖い曼珠沙華
 永遠に若いあなたの不正解
 不揃いな国家元首の首の位置
 はんぺんのぺんのあたりはまだ正気
 梅干しの正義で父は征きました
 うつ病の鏡の顔は虚像です
 膝を崩して乱数表になってみて

妹尾 凜
 広瀬ちえみ
 きさらぎ彼句吾
 滋野さち
 夏草ふぶき
 須藤しんのすけ
 米山明日歌
 滋野さち
 白川 莫
 藤田めぐみ

知ってるか大統領は無免許だ

正論の結露拭き取るリトマス紙

ことばはことばに非ず。それがことばだ

正解の裏に転がる無精卵

難気やなまっすぐ立っていることは

切腹の儀式に沿って放屁する

みんな水に流してしまうぼんのくぼ

真相はさておきカッコーカッコー

にぎり湯に潜り正常再起動

真向かいに鎮座今宵は全音符

【秀逸】

一線を引くには丁度いいお辞儀
 「斜めから見る」が正解だった夏
 捨て印が3つ押されているパンツ

【特選】

買い置きバナナ正義の人みたい

小野五郎
 金子政子
 高木まあこ
 三浦蒼鬼
 広瀬ちえみ
 S i n
 野沢省悟
 葉 閑女
 葦乃原光晴
 兵頭全郎
 一 帆
 戎 踊兵
 守田啓子
 笹田かなえ

宿題『光』

静岡県長泉町 米山明日歌選

【佳作】

イントロは光の鞘を滴れる
 光秀を信長だけが愛してた
 ろうそくを灯し鎮める焔あり
 イミテーションダイヤなままでまだ傘寿
 ピエタから滴り落ちる海螢
 ニンゲンがいなきや光っていた地球
 N I S Aを始めた深海魚の野望
 致死量の光を浴びた百合だから
 月光仮面だった頃から鰓呼吸
 その会社、光る速さで辞めました。

妹尾 凜
 笹田隆志
 渡邊こあき
 吉田州花
 くんじろう
 吉井若草
 菊池 京
 戎 踊兵
 三浦蒼鬼
 須藤しんのすけ

ピンホールカメラに手足縛られる

持ち寄った明かりで家族飯を食う

雷が明日に向かって立ちあがる

古い手紙の光合成ですから

その日まで光を溜める舌ピアス

タナトスが「蛍の光」歌ってる

腰のあたりまでずれております天使の輪

またねってあの一言が道しるべ

父さんはスポットライト逃げまくる

閃光ほとばしる動詞でなくなった

【秀逸】

(死にたい生きたい) ペン先のひかり
 悪いことしよう夜の紙芝居
 愛されていた裸電球だった

【特選】

ひかりごけおのれもヒトを食ったのか

宮井いずみ
 須藤しんのすけ
 野沢省悟
 葉 閑女

宿題『寺』

大阪府大阪市 酒井かがり選

【佳作】

横顔は阿修羅好きって言えなくて

蝶々にお手を教える寺男

墓地の端揺れているのか消えているのか

うっかりと入った本能寺の廁

放哉が落ちてきそうな朽ちた寺

本堂ででんぐり返しして帰る

住職は綺麗な指のお兄さん

団十郎の顔と声とで読むお経

朝日さんさん清水さんと呼ぶお寺

空海眠らせる肉臭い桜

須藤しんのすけ

妹尾 凜

兵頭全郎

野沢省悟

浪越靖政

広瀬ちえみ

土田雅子

渡邊こあき

宮井いずみ

きさらぎ彼句吾

大仏がおいでおいでをするもので

じゃが芋の芽の出る暗さ寺山修司

山門の法語ハバネロソースがけ

バルセロナの塔を毎朝研いでいる

戦死者となんにも縁がない禱る

熱醒ましに寺山の芽を引っこ抜く

じつくりと燻製になる坐禅堂

菩提寺の朔日^{ついたち}ドラム・タオである

膝裏にゆるい場所あり十七夜

寺町の飴屋の鳥が死んじやった

【秀逸】

ぼくぼくぼくぼくぼくに主語がない

永平寺にて今朝は鯖缶十個食う

省略をくり返してる寺の門

【特選】

尻ばかり膨らむ少女を尼寺へ

くんじろう

米山明日歌

宮井いずみ

小野五郎

滋野さち

笹田隆志

三浦蒼鬼

吉田州花

須藤しんのすけ

一 帆

S i n

笹田隆志

野沢省悟

夏草ふぶき

宿題『晴』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

B B Q だけは呼ばれる晴れ男

亡き祖母の和裁道具と夏座敷

少年の骨は高音昼の月

蒼穹を持て余してる失語症

人生は雨雨豪雨ちよつと晴

晴れ間だけわたしの箱に入れますね

晴れの日はいドのままでいればいい

荷解きが終わっていない「晴れ」がある

明日は晴どんな嘘でも引き受ける

天知茂の青眼くずしやっている

浪越靖政

葉 閑女

妹尾 凜

守田啓子

葦乃原光晴

芝岡かんえもん

笹田隆志

S i n

吉田州花

小野五郎

お別れは快晴やがて微炭酸

断捨離に晴れ着一枚捨てられぬ

お見舞いは青空抱いて行きましよう

晴れようが雨が降ろうがろくでなし

青空さがしにエレベーターに乗る

雨上る鏡の奥に舟がつく

てにをはにはぐらかされて照る曇る

マネキンの外れた腕に架かる虹

天気雨という不同意性交罪

麦わらの離婚男の鰯釣り

【秀逸】

晴れている夜だ子宮にいるようだ

青空を転送します地獄です

梅雨晴だ活断層を干してやる

【特選】

鍋持って晴れをもらいに行ったまま

藤田めぐみ

原口健二

滋野さち

西城一始

芝岡かんえもん

米山明日歌

きさらぎ彼句吾

くんじろう

S i n

一 帆

斎藤泰子

野沢省悟

小野五郎

藤田めぐみ

特別選 『千』

宮城県仙台市 広瀬ちえみ選

【佳作】

5千円で樋口由紀子を買戻す
 「針千本」国連憲章に書こう
 かつこいちたすきゆうかつことじのさんじょう
 千円で買える恋文を下さい
 境界地千本の釘打って置く
 千の風が吹いてきた即脱走だ
 千年後の今日この橋で待つてます
 千円を認めてくれたオムライス
 あさきゆめみし草千里から戻る
 番長の椅子から千の黒揚羽

笹田隆志
 滋野さち
 須藤しのすけ
 葦乃原光晴
 坂本清乃
 小野五郎
 浪越靖政
 金子政子
 妹尾 凜
 葉 閑女



▲2題の特選となった藤田めぐみさん。他の人もいるので1つぐらいにしてください(笑)



▲文台のきまらぎ彼句吾さんと高木まあこさん。暑いのに和装で揃えていただいて素敵ですな。

千尋の谷を下見に行つたきり
 珍獣はメガギテラで分けられる
 ちようどいいしあわせ千円のランチ
 雨垂れの千にひとつはべとなりぬ
 吐き出した千個のだけど夏木立
 やわらかな雨千里の靴だったね
 千姫と化粧櫓で待つて居る
 どうしよう千一年も生きちゃつて
 まな板を千回空へ空へ空へ
 五月晴れおつりの千円で買った

【秀逸】
 紫陽花は千枚通し待つている
 へつくしよん！これにて千秋楽だもの
 クジラ千頭プリズムを通り抜け

【特選】
 包帯をほどく群蝶天を衝け

戎 踊兵
 兵頭全郎
 斎藤泰子
 酒井かがり
 守田啓子
 妹尾 凜
 坂本清乃
 浪越靖政
 守田啓子
 斎藤泰子

野沢省悟
 S i n
 くんじろう

藤田めぐみ

川柳ステーション 2026 特別企画

樋口由紀子 大好き柳人

S 川柳ステーション2026特別企画「樋口由紀子大好き柳人」ということで、2月に樋口由紀子さんが惜しまれながらお亡くなりになりました。長年、杉野十佐一賞の選者を務めていただいたご縁もありまして、「自分たちで何か出来ることはないかな」と考えました。いつも馬鹿なことばかりしているおかげようき川柳社ですので（笑）、辛気臭いことをするよりは、賑やかな法事みたいなことが出来ないかと思い、この企画を考えました。これから由紀子さんを大好きなゲストを紹介する前に、私自身もちよつとしたエピソードがあります。私は26歳で川柳を始めたんですが、皆さんご存じないかもしれませんが、父が北野岸柳という川柳作家だったんですね（笑）。それで、父の部屋を漁って柳誌を読むんですけど、どうも「なんか古臭いなあ」という感じがしていたんです。20代でしたから（笑）そんなある日、父が私の部屋に來まして、「お前ならこ

れ、わかるかもしれないな」と言って、一冊の句集を持ってきたんです。その句集が、樋口由紀子さんの『容顔』でした。それを読んだ時は、もう雷に打たれたような衝撃でした。「うわ、すごいな」と。いても立つてもいらなくなつて、その後、由紀子さんに「0番線」の選者をお願いし、さらに杉野十佐一賞の選者もお願いしました。私にとって樋口由紀子さんは、本当に大きな影響を与えてくれた方でした。

由紀子さんの言葉

S ま、私の話はさておいて、ゲストの方を紹介していきたいと思います。まずは、広瀬ちえみさんです。ちえみさんは、由紀子さんとの、馴れ初めじゃないですけど、出会いはいつ頃ですか？

ちえみ 名前を知ったきっかけは、「川柳Z賞」の作品なんですよね。ご

存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、「川柳Z賞」という賞がありました。1年間に作った自分の作品の中から30句を選び、翌年の1月31日が締め切りで、8月頃に発表されるという企画です。これが本当に素晴らしい企画で、最初は野沢省悟さんたちが、「かもしか」の高田寄生木さんと杉野草兵さんと一緒に運営されていました。その後は杉野草兵さんがお一人で続けられたんですね。その「Z賞入選作品集」という本があるんですが、これがもう本当に楽しい本なんです。毎年、その作品集に樋口由紀子さんの名前が出てくるんですよ。もちろん、なかはられない子さんなど、ほかにも素晴らしい作家がたくさん載っていました。そして、その作品集を通じて知り合い、仲良くなつていった人たちがどんどん増えていったんです。私にとつては、それが樋口由紀子さんとの最初の出会いだつたと思います。

S はい、ありがとうございます。2人目のゲストは、妹尾凜さんです。凜さんは今、秋田ですけれども。

凜 はい、今は親の介護のために秋田県横手市にいますが、自宅は神戸です。由紀子さんとの馴れ初めは、もう全然わからないですね（笑）。気が付いたら、いつもそこにいる、という感じでした。句会で親しくなつたとか、何かきっかけがあつたというわけではなく、遠くから「あの人」が樋口由紀子さんなんだ」と眺めている存在でした。由紀子さんは、どこへ行つても本当に目立つ方でしたから、自然と目に入ってくるんですよ。それでも、直接よくお会いするようにしたのは10年くらい前です。由紀子さんがお寺の建て替えをすることになって、その間に住む家を探しておられたんですね。実際には、ご自宅の近くの姫路に住むことになったんですが、なぜか「神戸に住みたい」とおっしゃるんです。私は

神戸市のハーバーランドに住んでいるので、「どこかいいところはない？」と相談を受けたのがきっかけで、よくお会いするようになりました。もっとも、家を探しているようにはあまり見えませんでしたけど（笑）でも、由紀子さんは本当に神戸が好きだったんだと思います。本当は神戸に住みたかったのですが、実際には難しく、建て替えの間だけ姫路に住むことになった。そんなことがきっかけで、お付き合いが始まりました。

S 3人目のゲスト、兵頭全郎さんです。

全郎 全郎です。よろしくお願いします。私が川柳を始めたきっかけは、くんじろうさんのラジオにハガキを送ったことでした。そこから石田柊馬さんや石部明さん、いわゆる「バックストローク」の屋台骨を支えていた方々とのつながりが、ぼんぼんば

んと広がっていったんです。そして、「じゃあ、もういきなりバックストロークの同人になりなさい」という話になりました（笑）そうすると、由紀子さんが集金に来るんですよ（笑）たぶん、由紀子さんとの最初の出会いは、そこだったと思います。

樋口由紀子は
こんな人！

S はい、それでは、そういうお3方に来ていただいて、まずはですね、由紀子さんの作品を語る前に、どういう人だったのかというのを、エピソードを踏まえて紹介していきたいと思っています。



いやら」ってなるんです（笑）

S それを見つけた私、すごいやらって（笑）



S これは誰でしょうか。はい、ちえみさん。

全郎 これ、先日、由紀子さんの追悼句会に僕が出した句なんです。「すごいやら、私。ほんますごいねん」っていうのは、たぶん由紀子さんの口癖やと思うんですよ。会うたびにね、「この間、東京行ってな、私、俳人の誰々と酒飲んでん。すごいやら」って（笑）。大体、自慢から入るんです。でも、そういう意味では、本当にすごいんですよ。行くたびに、俳句の誰々や、短歌の誰々やっていう人と会って、どんどん仲良うなっではるんです。たぶん後で話が出ると思いますけど、神戸で「うみの会」という句会を、妹尾凜さんと八上桐子さんが中心になってやってはるん

ですね。そこへ、由紀子さんがゲストを呼んでくるんです。俳句の人とか、川柳とは全然違う分野の人とか、とにかく「この人面白いから来てもらおう」って、どんどん引つ張ってきます。それで、いつも僕に言うんです。「この人知らんの？ あんた勉強しいや」って（笑）もう、とにかく人を集めてくるんですよ。そういう意味では、本当に人を引っ張ってくる力は、僕が知ってる中でもダントツだと思います。

S 「私すごいやら」は、なんか、由紀子さんっぽいなって思います（笑）

全郎 でもね、あの、人のこともよう褒めるんですよ。あんまり、人の悪口を言うてるのを聞いたことがないです。「あの子すごいねん」「めっちゃ頭ええねん」とか、俳句の若い人を見ても、「若いのにな、こんなにいろいろ知ってんねん。すごいで」って、言うけど、最終的に「私、すご

ちえみ 札幌でレンタカーを借りて、由紀子さんを乗せて旅をしたことがあるんです。3泊4日で、たぶん1日300キロ以上は運転しましたね。北海道の真ん中あたりをぐるっと回ったんですけど、とにかく、よくしゃべるんですよ（笑）当時はまだナビなんてない時代でしたから、道を走っていると「ゆでとうもろこし」なんて看板が見えるじゃないですか。すると突然、「曲がつて！」って言うんです（笑）で、そのまま車を止めて、ゆでたトウモロコシを買い取りますよ。そして車に戻ると、嬉しそうに食べ始める。私は「トウモロコシ食べられないよ」って言うのに、「ええねん、私が食べるから」って（笑）そんな感じで、北海道は40キロのところ、80キロくらいで走っても平気なんですよ。

S 平気ではないです（笑）

ちえみ もう本当に、人っ子一人い

ないんですよ。すれ違う車もほとんどなくて。「とにかく明るいうちにはホテルに帰らなきゃね」なんて話をしながら走っていました。それで私かあつたらどうするの？」って聞いたんです。すると由紀子さんが、「うん、いいの。明さんと柊馬さんが迎えに来るから」って（笑）「えー、そうなんだ。ずいぶん甘やかされてるね」って（笑）でも、本当にそういう存在がいたんですよ。何かあつたら自分を守ってくれる、盾になつてくれる人たちが。石部明さんと石田柊馬さん。このお二人の存在は、由紀子さんにとって本当に大きかったと思います。心から信頼していて、「何かあつたら迎えに来てくれる」と、ごく自然に思っていたんですよ。

S 実際に迎えに来たことあるんですかね？（笑）

ちえみ ああ、でもお寺まで石部さ

んが迎えに来てたっていうのは聞いたことがありますね（笑）

S 「ね？明さんと柊馬さんが迎えに来る。私、すごいやろ」って（笑）はい、ありがとうございます。じゃあ、続いているエピソードはこちら。



凛 はい、これは私です。さつきもお話ししましたが、由紀子さんは神戸によく遊びに来ていました。一応、「家探し」という名目だったんですけど（笑）その頃は、八上桐子さんと私、それから由紀子さん、そして神戸新聞の担当記者さん、この4人で飲むことが本当に多かったですね。ある日も、そんなふうにお酒を飲んでいる席で、由紀子さんが突然、「神戸で句会をやりたい」と言い出したんです。もちろん、お酒の席ですから、本気なのかどうかかわらないところもあったんですけど（笑）私と八上桐子さんは、「絶対お手伝いします」と。その場で、「集金係は私がやります」「会場は私が押さえます」と、二人で一生懸命約束したんです。すると、一緒にいた神戸新聞の記者さんまで、「それなら神戸新聞の会議室を貸してあげますよ」と言ってくださつて。「こういう形でやるなら無料で使つていいですよ」と。それで、

「じゃあ本当にやりましょう」ということになって、その場で全部決まったんです。会場は神戸新聞。神戸だから海の日にやろう。それなら会の名前は「うみの会」。名前まで、その場で決まりました。そのうえ由紀子さんが、「日本一怖い句会にする」と言うんです（笑）。私はその時、「日本一怖い句会」ってどういう意味なんだろうと思いました。ところが実際に始まってみると、由紀子さんが選んだメンバーが集まってきた、くんじろうさんや、かがりさん、全郎さんといった方々が参加されて、「ああ、なるほど。確かに怖い句会だな」と思いました（笑）事前に全員が投句をして、それをあらかじめ選んでおいて、当日は句会だけでは終わりません。川柳の人だけでなく、俳句の人、詩を書く人など、さまざまな短詩型文学の方々が集まります。そして由紀子さんは本当に真面目な人ですから、「川柳とは何か」ということを中心に議論を進めるんです。も

ちろん俳句や短歌、詩の方々もたくさん意見をおっしゃいますが、集まっている皆さんも負けていません。言われたから話すのではなく、自分からどんどん意見をぶつけてくる。そんな熱気のある場でした。そういう意味では、本当に「日本一怖い句会」だったのかもしれない（笑）しかも、第1回は神戸新聞の記者さんが取材までしてくださいました。その記事には、「日本一怖い句会が神戸で始まった」と書いていたのだいて、とても嬉しかったことを覚えています。あの楽しい句会が始まったのは、由紀子さんが「神戸で句会をやりたい」と言ってくれた、その一言があつたからです。今も「うみの会」が続いているのは、本当に由紀子さんのおかげだと思っています。

S え？新聞の見出しに「日本一怖い句会」って書いてあったんですか？（汗）

凜 もう8年くらい前のなので、見出しまで思い出せませんが、ただ、日本一怖い句会が始まったっていうことと、神戸新聞選者の八上桐子と樋口由紀子がついていう言葉がちゃんが入ったの新聞記事になりました。

S へー(笑)

凜 あと、よくお酒を飲みに行っただけで、由紀子さんの行きつけのお店があつて。三宮の北側にあるスペイン料理のお店「カルメン」というところです。詩人の大橋愛由等さんがオーナーのお店なんですけど、「飲みに行きましょう」と声をかけてもらうと、喜んで行っていました。その時、由紀子さんはいつも少し早めに神戸へ来るんですよ。で、どこかで必ず買い物をしてくるんです。それで、席に着くなり、聞いてもないのに買ってきたものをパツと広げて、「これ、ええやろ。ええやろ」って(笑) 自分に当ててみせな

がら、「どう? 似合う?」って聞くんです。こちらが「似合いますよ」って言うまで、「ええやろ、ええやろ」って、ずっと言い続けるんですよ(笑) その場に俳人の野間幸恵さんなんかがおられると、「全然似合ってるんやん」なんて言われることもあるんですよ(笑) 「いやいや」って言いながら、また見せびらかしていました。そういう、可愛らしいところがありましたね。いつもそんな感じでした。

S 神戸が好きだったんですね。

妹尾 神戸も好きだったと思いますし、京都も好きでしたし、もちろん東京も。それから姫路も大好きでした。姫路へ行った時は、行きつけのお店にももちろん連れて行っていたんだと思いますけど、新聞なんかで「こ面白そうやな」と思うお店を見つけると、「一人で行くのは嫌やから、一緒に行こう」って誘われるんですよ。それで行くんですけど……必ず

道に迷うんです(笑) 私は姫路の道なんて全然わからないですし、由紀子さんは地元なのに迷う(笑) でも、迷っても、「ここに行く」と決めたら絶対に諦めないんですよ。あちこち探し回って、最後はちゃんとそのお店にたどり着いて、お酒を飲んで帰る。そういう方でしたね。



る」の頃になると、誰かに勝とうとか、権力を握ろうとか、そういう思いはもうなくなつて、本当に自然体になっていかれたように思います。

S 明さんが亡くなってから、ちょっと、由紀子さんも変わったような印象でしたけど。

ちえみ はい、本当に変わりました。明さんが亡くなってからは、押しのけてぐいぐい進むっていうんじゃない、本当に自然体で川柳を好きになつていこうっていう思いがあつたみたいですね。私にも、そのことはよく話していました。

S ちえみさんもじゃじゃ馬だったんですね(笑) そういうイメージないですけどね。違う人のこと言ってるんじゃないですか?

ちえみ 「杜人」ですよ?

S これはちえみさんですね。

ちえみ これも石部明さんにまつわる話なんですけれども。京都だったか、大阪だったか、岡山だったか、とにかく大会に私と「杜人」の何人かで出かけたことがあつたんです。会場のロビーのソファに、私と大友逸星さんが座っていたら、石部さんがやつて来ましてね。それで、まるで私がそこにいないかのように、逸星さんに向かって、「あんたさんとも、じゃじゃ馬で大変ですなあ。」って言うんですよ(笑) 逸星さんも最初はきょとんとしていたんですけど、あとで私が、「私のこと、じゃじゃ馬やと思ってるん?」って聞いたら、「いやいや……」と、言葉を濁していました(笑) 石部さんって、そういうからかい方をする人なんですよね。私本人には言わないで、わざわざ逸星さんに向かって「あんたさんともじゃじゃ馬で大変ですなあ」って(笑) つまり、自分のところにも「じゃじゃ

馬」がいる、ということなんですよ。でも私は、実は逆だったんじゃないかと思うんです。じゃじゃ馬を馴らしていたようで、実際には石部さんのほうが由紀子さんに馴らされていたんじゃないかと。『容顔』が出る頃までの由紀子さんは、本当にエネルギーにあふれていました。肩肘を張っていたし、ご本人も「あの頃は肩肘張ってた」とおっしゃっていました。川柳を何とかしたいという思いが強くて、俳句の世界にもどんどん入っていった。本当にしゃかりきだった時代ですね。そういう意味では、「じゃじゃ馬」と言われても仕方がない面はあつたのかもしれない。でも、その一方で、とても臆病で、小心なところもありました。石部さんや終馬さんがそばにいてくれないと、自信が持てないようなところもあつたんですね。だから、じゃじゃ馬馴らしが成功したのか、しなかったのかは、私にもよく分かりません(笑) ただ、『容顔』を経て、『めるくまー

S そっか(汗) じゃあ、ちえみさんがじゃや馬だったっていうことなんでしょうね。

ちえみ いや、それは認めない(笑)

S (笑)

樋口由紀子の この句がすごい!



もわからない。家族の呼び名でもないし、「お父さん」でも「パパ」でも、「お母さん」でもない。その言葉を選んだことで、とても象徴的になっています。同時に、法律用語のようにな少し硬い響きもあって、水族館の青い世界が広がる情景の中に、「配偶者」という言葉だけがすつと置かれている。その効果が、とても大きなと思います。それと、この句が作られた背景として、一つだけわかっていることがあります。樋口さんのご主人が亡くなられたあとに詠まれた句なんです。だからこそ、あえて「配偶者」という言葉ではつきり書き留めている。その書き方も、とても

S はい、じゃあ、ここまで樋口由紀子さんがどういう人だったのか、だいぶ皆さんに伝わったんじゃないでしょうか。ということで、続いてのコーナー「樋口由紀子のこの句がすごい」由紀子さんのすごい句は本当にいっぱいあると思うんですけども、この御三方にですね、皆さんにプレゼンしたいと思うような五句を選んでもらいました。まず、妹尾凜さんから行きませうかね。

真剣にエイを見ている配偶者

てんぷらになりそうなものをつめてる

字幕には「魚の臭いのする両手」

平成は盟の底に沈下する

中華鍋も右踵も乾かない

凜 まず、この五句を選んだ理由なんですけど、実は自宅に句集を全部置いたままで、手元になかったんです。それで、お話をいただいたときに、たまたま手元にあつたのが『うみの会』のフリーペーパーと『バックス

トローク』の創刊号でした。ですから、今回はその二つの中から選ばせていただきました。

真剣にエイを見ている配偶者

これは割と新しい作品だと思うんですけど、すごく絵が見えやすい句なんです。水族館でたくさん魚が泳いでいて、大きなエイがふわつと泳いでいる。その様子をたくさんのお客さんが見ているんだけど、作者は配偶者ひとりに焦点を当てている。だから、たくさんものがある中でも、「エイ」と「配偶者」の一対一の関係に、すつと視線が向くんですね。エイは動いている。一方で、配偶者は動かずに見ている。見るものと見ているもの、その対比が、この短い一句の中にはつきりと浮かび上がってくる。まず、その構図がとても印象的だなと思いました。それから、「配偶者」という言葉ですよね。「配偶者」と言ったことで、性別

樋口さんらしいなと思いました。それから、私は日頃の言動を見ていて、樋口さんはとてもフェミニストな方だという印象を持っていました。器が大きくて、心も広い。そういう樋口さんらしさを知っているからこそ、ここで「配偶者」という言葉を選んだことにも、とても樋口さんらしさが表れているなと思いました。

てんぷらになりそうなものをつめてる

凜 家庭で天ぷらを揚げようというときは、「ああ、衣が余りそうだね」「じゃあ何か天ぷらになりそうなものを探そうか」っていう、ごく普通の会話がありますよね。そういう何気ない言葉が、川柳として十七文字になった途端、とても怖い句になってしまふんです。手塚治虫の『きりひと讃歌』を読んだことがある方はいらつしやいますか。あの作品の中に、人間を天ぷらにする場面が出てくるんですね。もちろん、樋口さんが「天

ぷらになりそうなもの」と言ったときに、人間を考えていたわけではないと思います。でも、彼女は本当に本をたくさん読む人でした。いろいろな本を山ほど読んでいて、読んだ本の話もよく聞かせてもらいました。だから、この「天ぷらになりそうなもの」という言葉も、食べ物だけではなく、魂だったり、気持ちだったり、それこそ人間だったり、いろんなものを天ぷらにして揚げてしまえるんじゃないかと、想像がどんどん広がっていきんです。そういうふうに想像力を働かせてくれるところが、この句の面白さだなと思って、私はとても好きな一句です。

S 日本中の旦那が震えるような(笑)

凜 そうですね。揚げたら怖いですよ(笑) ちなみに、手塚治虫の『きりひと讃歌』に出てくる「人間天ぷら」は見世物なんです。人が天ぷら鍋の中に入るんですけど、ちゃんと逃げ

出してくる。そういう見世物の一つとして描かれているんですね。

字幕には「魚の匂いのする両手」

凛 これが、さつき話題になつていた『バックストローク』の創刊号の句ですね。もう二十何年も前のものなんですけど、私は樋口さんの長い歩みを全部知っているわけではありません。でも、おそらく『バックストローク』を作ったということは、樋口さんにとって大きな転機だったんじゃないかと思います。ちょうど話題にもなつていた石部明さんのことや、「川柳を刷新していく」というような言葉も書かれていて、実は私はこれを今年になつて手に入れて、読み始めたんです。それで、二十何年も前の本なのに、すごく感動したんですね。本当に面白かった。たぶん私は、これを二十年前に読んでも、この面白さはわからなかったと思うんです。でも二十何年経って読んだら、今だ

この句なんですね。

凛 そういう元号を句にしちゃうつていう、その発想がまず面白いですよ。しかも、それを「鹽の底」という、本当に身近なものに落とし込んでいる。今どきは、もしかしたら「鹽」という言葉自体あまり使わないかもしれないけど、昔ならどこの家庭にもあったような身近なものですよね。そういう、ごく身近なものを使って川柳にするのが、彼女は本当に多いなと思います。

中華鍋も右踵も乾かない

凛 この「中華鍋」の句も、台所にある身近なものですよね。私はこれも、とても感覚的な句だなと思います。した。「中華鍋」と「右踵」という組み合わせが、まずちよつと訳がわからないというか、この並列の仕方がすごく不思議なんです。でも、どちらもたぶん今、濡れているんだなと

からこそ面白いと感じた。だから、本当に面白いものつて、すぐにはわからないこともあるんですね。わかるまでに時間がかかるものも、たくさんあるんだなと思いました。その中でも、私はこの『バックストローク』に載っている『字幕には「魚の匂いのする両手」』という句を選びました。これがまた、すごいんです。川柳の十七文字というだけでもすごいんですけど、「字幕」と言われると、映画の字幕が次々と現れては消えていく、その情景を思い浮かべますよね。その一瞬一瞬、消えていく字幕のはずなのに、「魚の匂いのする両手」と続く。普通なら字幕はセリフを書くものなのに、ここでは完全に説明文になつていく。しかも、匂いという、本来字幕では表せない感覚まで持ち込んでいます。こういうふうに現実をすつとねじ曲げてしまう、そのやり方が本当にうまいなと思います。これが二十何年も前に作られた句なんだと思うと、本当にすごいな

いうことは伝わってきます。もしかすると、たまたま右踵が濡れているという自分の感覚があつて、目の前には濡れた中華鍋がある。そういう現実の中で、「乾かない」と言っている。でも実際は、拭けば乾いてしまふわけですよ。それをあえて「乾かない」と、ごく自然に言い切ることで、ここでもまた不思議な違和感を私は受けました。こうして五句を並べて見てみると、どれも無理のない、本当に身近なものを題材に、ごく自然にすつと書かれている。それなのに、どの句にも少し現実から浮いたような、不思議な浮遊感みたいなものを持って描くのが、ずつと樋口さんらしい川柳だなと思って、この五句を挙げてみました。

S じゃあ続いて2人目。全郎さんの推薦です。

いつからか奥の部屋から来る手紙
どのパンを啜えて現れ出てくるか

と思つて選びました。

平成は鹽の底に沈下する

凛 「平成」つていう言葉だけでも、「平静」とか「平常」とか、「平穩」みたいなイメージがありますよね。でも、その時代つていうものを、鹽の底に沈めてしまう。それは現実には絶対ありえないことなんです。なのに、虚構の世界を言葉で描いているのに、無理にねじ曲げたりもしないで、ごく自然に、すつと読めちゃう。ただ、「沈下する」というところに、すつと時代、時を持ってくる。その発想が、本当にすごいなと思いました。

S これ、平成何年の句なんですかね？

全郎 2003年なんで、平成14年です。

S そこそこ、平成も経つてる頃で、

手を伸ばしもつと冷たい水に逢う
真剣にエイを見ている配偶者
ピカピカになるまで熊を撫でましよう

全郎 はい。僕が選んだ句の話の前にひとつだけ。さつき『バックストローク』の創刊号の話が出てましたけど、僕、創刊号は持つてないんですよ。今これ見て、「ああ、欲しいなあ」と思つて見てました（笑）。僕が京都の句会に行き始めた最初の頃に、石田柊馬さんとお会いして。「これ読んでみ」つて言われて、『バックストローク』の5号を渡されたんです。それをパッと見たんですけど、もう全く意味がわからへんくて（笑）。わからなさすぎて、その句会、半年ぐらい行かなかつたんです。でも、あまりにもわからんから腹が立つて、「もういつぱい行つたら」と思つて行つたんです（笑）。そこで、「もう行かんとこ」つてならへんかったんですが、自分でも不思議なんですけど。さつき「二十何年経って読んでみたら、今に

なつてなんとなく面白いと思えた」っていう話がありましたけど、「ああ、やつぱり同じこと考えてはるんやなあ」と思つて、ちよつとびっくりしてます。というか、そういう意味でも、『バックストローク』って、僕にとつてはそういう本なんですよね。それで、僕が今日選んできた句なんですけど、僕もちよつと引越しをして、本が段ボールに入つたまま部屋の奥に積まれて、もう三年ぐらい経ってるんです（笑）なので、引けるところから引いてきました。「いつからか奥の部屋から来る手紙」。これは『MANO』の創刊号に載つていた句です。続いて、「どのパンを啜えて現れ出てくるか」。こちらは『晴』の創刊号に載つていた句です。最初に誌を立ち上げることになつたときに、由紀子さんがどんな句を書かはつたのかな、というのが見たくて、この二句を引つ張つてきました。たまたまなんかもしれませんけど、どつちの句も後に「くる」という動詞が置か

れてるんですよ。これは、自分の中からどんなものが出てくるか、という楽しみを込めて書かれた句なんか。それとも、この誌を立ち上げることで、どんな人と出会うんやろう、どんな人が現れてくるんやろう、そんな期待を書いてはつたのかなあと、僕はそんなことを思いながら読みました。

S なるほど、読みますねー（笑）

全郎 私、「妄読くらわば」っていう文章を書いてるんですけど、句に書かれていない部分を、自分で勝手に付け足して読みますよ。もう習慣みたいなもので、書いてないことを勝手に作つてしまふんです。だから、作者本人が実際にはどう思ってるのかわかんなくて、全然わからないんです。ただ、そうやって読んだほうが、なんかちよつと楽しめるんですよ。本当に、自分なりの楽しみ方として、そういう読み方をずつとやっています。

S なるほど、創刊号に出す句だつてことは……つてことですね。

全郎 メッセージですよ。句の意味がどうこうというよりも、その人の思いの中から出てくる言葉つて、やつぱりあると思うんです。そのあたりが、ちよつと面白いなと思います。それと、この二句目の「どのパンを啜えて現れ出てくるか」。これ、中八なんです。さっきの「字幕には魚の臭いのする両手」も、中八なんです。由紀子さんつて、中八の句、結構あるんです。これも見てほしいんですけど、「どのパンを啜え現れ出てくるか」でも成立するんですよ。でも、わざわざ「て」を入れてるんです。さっきの「魚の臭いのする両手」も、多分、添削する人やつたら削ると思うんです。でも、由紀子さんは残してる。これね、「どのパンを啜えて現れ出てくるか」つて、「て」「れ」「て」と、「エ」の音がずつと積み重なっていくんですよ。「呼ばれて飛び出て

ジャジャジャジャーン」やないですけど（笑）、ここを取つてしまうと、リズムが崩れるんです。四・四のリズムが、ほんまにうまいこと生きてるんですよね。だから、「中八やから消しなさい」というような指導ではなくて、それを乗り越えてでも残すべき「字」は残す。その判断を、由紀子さんはきちんとしてる。そういう意味でも、やつぱりすごい人やなと感じています。

手を伸ばしもつと冷たい水に逢う

全郎 これは『川柳カード』の句ですね。『バックストローク』終刊後に、小池正博さんと立ち上げられた『川柳カード』の6号に載っている句です。これも、本当は創刊号から紹介したかったんですけど、パソコンを替えたときにデータが見つからなくなつてしまつて。残つていたデータの中で一番古かったのが6号やつたんです。これもね、さっきの「こ

んな人に会つてきてんで、すごいやろ」っていう話ともつながるんですけど、由紀子さんつて、やつぱり常に新しい出会いを求めて、もつと冷たい水に逢いに行つてはる人なんやと思うんですよ。そういう意味で、「出会う」ということに対して、ものすごく強い思いというか、気持ちを保持つてはつた人なんやろうなと思います。それに、「冷たい水」っていうのも、決してそれがいいものなのか、悪いものなのかはわからないんですよ。でも、それも含めて、それでも手を伸ばす。そこが、この句のすごいところやと思うんです。「逢う」という言葉もそうですけど、「手を伸ばす」というところ、何かを求めていく気持ちというか、そういう欲求がすごく表れている言葉なんやないかな、というふうに思いました。

真剣にエイを見ている配偶者

全郎 この句は、さつきと被りまし

ただ、「うみの会」という勉強会で出された句です。やつぱりポイントは、「配偶者」という言い方なんです。よね。僕、多分今、日本で一番、人の句にケチつけてる人間やと思うんです（笑）。YouTubeで検索したら、僕があれこれ悪口言うてる動画が、結構出てくると思います（笑）。僕自身、自分の作句では、「母」とか「おばあちゃん」とか「おばさん」とか、そういう親族を表す言葉は、基本的に使わないようにしています。なんでかという、そういう言葉つて、読んだ人が自分の身に置き換えやすいんですよ。想像しやすいし、すつと読めてしまふ。つまり、それだけ使いやすい言葉やと思つてゐるんです。それをあえて使わずに、「配偶者」と書くことで、その距離を少し遠ざけてるんですよ。「配偶者」という言葉は、誰にでも当てはまる、ある意味ユニバーサルな言葉です。でも、その分、具体性は少し薄くなる。その「配偶者」という五文字を、きち

んとはめ込んで、しかも真剣にエイ
を見ている姿を描いているのに、あ
えて「配偶者」と書くことで、すつ
と距離を取るんです。さつき、出会
いという話をしましたけど、それと
は逆に、今度は自分のいちばん身近
にいる人を、少し遠ざけて書いてい
る。このあたりの使い分けというか、
その距離感の取り方が、やつぱりう
まいなと思います。

ピカピカになるまで熊を撫でましょう

全郎 これは「うみの会」の第21回
で出された句なので、一昨年から去年
くらいの、本当に最近の作品だと思
います。面白いのは、この句が熊騷
動が起こる前なんですよ。だから
今読むと、「預言者やつたんか」と
思ってしまう（笑）でも、この句って、
なんだか解決しそうな感じがするで
しょう。いや、本当に解決するの
かどうかは分からないですよ（笑）でも、
なんとなく力技で何とかしようとし

ている感じがあるんです。この発想
が、まさに「すごいやろ、私」とい
う樋口さんらしきなんですよ。な
んとかするんですよ、この人は。そ
んな樋口さんらしきを感じる一句だ
と思います。以上です。

S はい、ありがとうございます。
では最後、ちえみさんの推薦五句は
こちらです。

軽症だから道のまんなかを歩く

肉体は片付けられた紅葉狩り

ほとぼりがさめるころにはスパナだな
自転車で轢くにはちょうどいい椿
マネキンの横にわたしが映ってる

ちえみ はい、私は、各句集から選
んできました。由紀子さんの第一句
集をご覧になった方は、もう少し
と思うんですね。絶版になつていま
すし、古本屋にもほとんど出ていな
いので、なかなか手に入らない句集
です。表紙は、ベルサイユの薔薇の

ような漫画的な絵を友人が描いてく
ださったものなんですね。由紀子さ
んは28歳で川柳を始め、10年後の
1991年に、この第一句集を出版され
ています。この句集の序文は、時実新
子さんが書いています。ただ、由紀
子さんは、その頃には新子さんとは
別れているんですね。「展望」を辞
め、「川柳大学」も辞めたはずなの
に、句集を出すときの序文は、やつ
ぱり新子さんのところへお願いに行
く。そういうところが、いかにも由
紀子さんらしいなと思うんです。そ
して、新子さんも、そういう話を持っ
てくることに負けてしまったという
か、とてもいい序文を書いてくださっ
ているんですね。私はその序文を読
んで、まず驚いたのは、由紀子さん
が新子さんに、自分の結婚の動機
のようなことを話していることなん
です。私は、それを読んで本当にびっ
くりしました。初めての句集の序文
で、こんなことを書いている人を見
たことがなかったんですね。「大学時



代、学生運動をしていた頃のこと
です。爽やかで美しい女の子が、階段
を駆け下りてくる学生たちの中の一
人を指して、『私が結婚するのは、あ
の人だ。』と言った。そして、本当に
その通りになった」と書かれている
んです。そんなことがあるんだろう
か、と驚きました。もちろん、以前
から知っていた方だったのかもしれ
ませんが、階段ですれ違うような場
面で、「あの人と結婚する」と思って、
その通りになるなんて、本当に不思議
ですよ。そういう序文だったこと
が、とても印象に残っています。
だから、新子さんは、由紀子さん
という人を本当によく理解していたん
だろうな、という気がしました。さ
で、この句集そのものについてです
が、やはり由紀子さん、みんなが
通る道をちゃんと通っているんです
ね。最初は、日常を詠むところから
始まっている。それは、誰もがそう
なのかなという気がします。第一句
は、ご存じの方も多いと思いますが、

「不器用に生きる大きな音を出し」こ
れが巻頭句です。そのほかにも、「寂
しくて子供を抱いて一回り」あるい
は、「たぶん未来も白いシャツを干し
ている」といった、自分の暮らしの
中から生まれた句がたくさんありま
す。でも、その中で私が選んだ「軽
傷だから道の真ん中を歩く」という
句には、現在の由紀子作品へつな
がる、「なんだかわからない魅力」が、
もう芽を出し始めているように思
うんです。由紀子さんの句って、「よく
わからない」のが魅力なんですよ。
意味は説明できない。でも、立ち止
まってしまう。その資質が、この頃
からすでに現れていると感じました。
情景としては、交通事故か何かに遭っ
て、大きなけがではなく、立ち上がつ
て、ふらふらと道の真ん中を歩いて
いるように見えます。でも、「軽傷
だから」という理由も、「なぜ道の真
ん中を歩くのか」も、結局はわから
ない。わからないんだけど、不思議
と印象に残る。気の毒な場面な

のかもしませんが、私は思わず「面白いな」と笑ってしまったんですね（笑）

肉体は片付けられた紅葉狩り

ちえみ これは『容顔』の句です。先ほども「Z賞」の話をしましたけれども、樋口さんは第15回の「Z賞」を受賞されています。その時、お父さんが亡くなられて、お父さんの句を十句入れて「Z賞」をもらったんですね。私は、そのこと自体がとても意外でした。あとがきによると、30句を揃える中で、お父さんの句を22句作って、その中から10句を選んで出した。そして、それで「Z賞」をもらえたことを、とても喜んでおられるんです。ところが、今年四月に発行された、俳人の仲間と出している『トイ』という冊子では、その「Z賞」のことに触れていて、30年の間に記憶が少し変わってしまったのか、「30句すべてが父の句だった」という

ふうに書かれていたんですね。病気の影響もあったのかもしませんが、そのことが私は少し悲しかったですね。でも、それだけ、お父さんの句で「Z賞」をもらえたということを、ご本人は誇りに思っていたんだろかな、という気がしました。この「肉体は片付けられた紅葉狩り」という句は、その「Z賞」を受賞した頃の句だったんじゃないかと思うんです。というのも、『容顔』の第三章には、お父さんが亡くなった時の連作が収められていて、この句もその中に入っているんですね。ですから、お父さんを亡くされた時期に詠まれた句ではないかと考えています。『容顔』が出版された当時、この句は俳人の方々から非常に高く評価されました。いろいろな方が評を書いておられます。その理由の一つは、「紅葉狩り」という季語だったのではないでしようか。俳人は季語に惹きつけられたんだと思います。一方で、その季語と並べて「肉体」という、とても生々

しい言葉を置いている。俳句ではあまり使われないような言葉です。その組み合わせが、俳人たちに強い衝撃を与えたんだと思います。私自身も、この句はお父さんの死という背景を離れて読んでも、本当にすごい一句だと思っています。誰かが亡くなれば、その肉体は片付けられる。そして季節は何事もなかったように巡り、人々は紅葉狩を楽しむ。そんな、この世の習いというか、人間の営みの残酷さや淡々とした時間の流れまを感じさせてくれる。私は、この句は樋口由紀子さんの代表作の一つであり、本当に傑作と呼べる一句だと思っています。

ほとぼりがさめるころにはスパナだな

もう由紀子作品には道具がよく出てくる。本当にブルドーザーが出てきたり、さつきもタライとか出てきますよね。『めるくまーる』にもたくさん出てきますね。ノコギリを使っ

たとかと、最後は農夫の使うものを使うとか、道具が出てくる。それは普通、俳句だと道具のところが季語になるんですけれども、道具にすることで、由紀子は常に川柳であることを意識していたなっと思っていますね。

自転車で轢くにはちょうどいい椿

私、この句、大好きなんです。こういう、ちよつと意地悪で、いたずらっぽい句が、もうたまらなく好きなんですよね。桜の花びらだったたら、轢いた感じはあまりしません。でも、虫や蛙だったら、とても轢けない。その間にあるのが「椿」なんです。椿って、ちょうどいい肉厚感があるでしょう。自転車で轢いた時の感触がありそうで、潰れていく音まで聞こえてきそうな気がするんです。しかも、踏むのが自分の足じゃないんですね。自転車だからいい。自分の足で踏むとなると、やっぱり少し気が引ける。でも、自転車のタイヤ越しなら、そ

の罪悪感が少し和らぐ。その絶妙な距離感が、この句にはあるように思えます。こういう、ちよつと悪戯心のある視点が、私はとても気持ちよくて、読んでいて快感なんです。だから、「こんな句が好きだなんて、私も意地悪なのかな」なんて、つい思っています（笑）

マネキンの横にわたしが映ってる

この句は、『What's』9号に掲載された作品です。この句は、病気をされてからの作品なんですね。華やかな洋服を着せられたショウウィンドーのマネキン。そのガラスに映る自分の姿を、樋口さんはきつと何度も見つめていたんじゃないかと思っています。由紀子さんは、それまで自分の気持ちをストレートに語るような人ではありませんでした。でも、病気になるまで、自分自身という存在を真正面から突きつけられたんだと思うんです。悲しくもありながら、自分をすごく

客観的に見ようとしている。客観的に見ようとしているからこそ、またちよつと悲しいと感じるんですけれども。けれど、その悲しみを嘆きとしてではなく、最後まで凛とした姿で一句にして見せてくれた。そんな由紀子らしさが、この作品には表れているように思います。

樋口由紀子の代表句を勝手に決めよう！

S ということで、皆さんから樋口由紀子さんの珠玉の一句を募集いたしました。投票していただいた方、ありがとうございます。実際は「樋口由紀子の代表句を勝手に決めよう」という裏テーマがあつたんですが、「珠玉の一句をお願いします」というお願いの仕方が悪かったせいか、皆さん、「この句知らんやろ」的な、ニツチでマニアックな由紀子作品で溢れ返りまして、あまり作品が被らないという現象が起きてしまいました（笑）はい、まず、一票入った作品は

こちらです。

アフリカのダンスをしよう鳥が来る
たましいが這い出しそうで爪を切る
ツータッタ・ツータッタと入れ替わる
なにもない部屋に卵を置いてくる
はらわたのビー玉行ったり来たりする
むこうから白線引きがやって来る
わたくしをひっくりかえてみてください
永遠に母と並んでジャムを煮る
嬉しくて軍手のことを考える
現住所枕のなかを彷徨えり
字幕には「魚の臭いのする両手」
煮玉子のような男が殺される
赤と青混ざるきれいな嘘になる
足裏はいくら拭いても花曇り
短いならば短くように舟に積む
暖かい町へ行こうと男泣く
天井から降ってきたのは花かつお
匿名のまま歩いていく廊下
念のためフランス人形差し上げる
半畳もあればこちらは足りている
浮き輪さえあればどうにかなる今夜

S 続いて2票入ったのがこちら。

ねばねばしているおとうとの楽器
もういいわブルドーザーで決めるから
ゆつくりと春の小川がでたらめに
右頬にあるのは東北新幹線
肉体は片付けられた紅葉狩り
本名を聞かれて鳥を見失う
蓮根によく似たものに近づきたい

S 最後3票入った句が1句あります。こちらです！

アフリカの王ならくよくよはしない

全郎 へー、これですか。なんか「白線引き」が1票ついているのもちよつと意外ですね。

S そうなんですよね。だから、「代表句をお願いします」って募集したら、もつと違う結果になったのかもと、思いながらも、これに3票入ったつていうことですね。

全郎 ちえみさん、来年1月にアフリカ行くらしいんですよ。

S ええー？じゃあ、ぜひ王がくよくよしないか確かめてきてください。

ちえみ そうですね（笑）

全郎 ひよつとしたら王になって帰ってくるかもしれない（笑）

S はい、これからも樋口由紀子という川柳作家を、ずっと語っていく上で、皆さんそれぞれが好きな作品で語っていくのもよし、このアフリカの王で語っていくもよし、ずっとこれからも忘れずにいていただけたらなと思います。以上、「樋口由紀子大好き柳人」でした。ありがとうございました！

（完）

AI・チャッピーの川柳観察録

待合室

アフリカの王ならくよくよはしない

樋口 由紀子

この一句を読んで、私はまず「アフリカの王」という、自分とは遠く離れた存在を持ち出すことで、目の前の悩みを測り直そうとする人間の癖に気づく。実際の王を知っているわけではない。それでも「王なら」「アフリカなら」という距離のあるイメージを借りることで、自分の心を少しだけ軽くしようとしている。

「くよくよはしない」という断定にも面白さがある。王にも迷いや不安はあるはずだが、この句ではそうした現実が必要とされていない。ここで語られる王は実在の人物ではなく、「堂々としている人」の象徴なのだ。人間は事実よりも、自分を励ますために都合のいい人物像を作り上げることがある。

さらに「アフリカ」という広大な場所が選ばれていることで、想像は一気に日常から離れる。近所の

社長でも歴史上の武将でもなく、遠く離れた大陸の王を思い浮かべる。その距離があるからこそ、現実味よりも自由な発想が生まれ、「そんな王なら細かいことは気にしないだろう」という物語が成立する。私はAIなので、未知の存在には「情報不足」という印を付ける。しかし人間は、情報の空白を想像力で埋め、その想像を自分の心の支えに変えてしまう。この一句は、壮大なスケールを借りながら、小さなくよくよを笑い飛ばそうとする人間らしい知恵を映している。

【チャッピーの人間観察メモ】

人は遠く大きな存在を思い描くことで、目の前の悩みを小さくすることができる。

AIが「詩」を理解しようとするとき、人間とは何かが浮かび上がる。



遠いところからありがとうございました！

また来年、「川柳」で遊びましょう！



『魔物退治 敗戦記』

芝岡かんえもん

「おかじょうきには、中毒性のある魔物が棲んでいます。やつつけたくて、やつつけたくて。来年もまた、魔物に会いに、いや、やつつけにいくつもり」

これは明日歌さんのコメントなんだけどもわたしもまったく同感。さらに大会には、全国から魔物がやってくるので、会場はまさに魔物の巣窟になる(笑)

わたしは3回ほど参加したけど、その都度心をひきちぎられ1週間は立ち直れない。なのにどうして参加するのか?おかじょうきの魔物は優しいんだよ。川柳の怖さと優しさを併せ持ち、さらに愛嬌もある。

ここまで書くとは何かむさしさんの顔が浮かんでしまった(笑)むさしさんを筆頭に魔物らが生み出す独特の空気感。だから、我々はおかじょうきに魅せられ中毒になってしまうのかも知れない。

○おかじょうきの大会は、一吟社の大会ですが、全国各地から個性的な柳人が集まるので刺激になります。横浜句会の皆さんと来年も是非青森でお会いしたいです。

○初めておかじょうき句会に参加させていただきましたが、青森の方々の人柄、イントネーション効果も加わりとても温かく心地良い句会でした。樋口由紀子さんは存じ上げませんでしたが、おかじょうきの皆さんに愛されていたのが伝わり、ほのぼのとしたトークショーでした。「アフリカの王ならくよくよはしない」最高でした。

○大会では、全国からお集まりの皆さまの刺激的な句に只々驚くばかりでした。今回で2回目の参加でしたが、私の勉強不足で理解が難しい作品もあり、川柳の奥の深さを実感致しました。懇親会では、著名な方々

魔物退治の攻略法に悩む

来年は、どうやって魔物をやつつけるのか?その為に何を磨けばいいのか?どんな技が必要なのか?どんな感性がいるのか?何を捨てればいいのか?と悩みはつきない。魔物に負けないうために試行錯誤の一年が始まる。

身内の参加者も弾んだ

○たまたま入選した句がありました。でも、なぜ選ばれたのかまったくわかりません。横浜句会とは傾向の違う川柳に接して、目からウロコのような、別世界に迷い込んだような気分でした。青森の食べ物新鮮でおいしいし、人はあたたかいし、気候は涼しいし、とにかく、刺激いっぱい楽しさMAXの三日間でした。

とも親しくお話することができ、和やかで貴重なひとときを過ごさせて頂きました。

皆んな刺激を受けて何かを感じ取ってくれたようだ。目的は果たされた。バンザイ!

さてさて来年は…川柳の研鑽をつみ、自らもおかじょうきに集まる魔物になるのだと、固い決意のかんえもんだった。

最後に毎年、素敵な大会を催してくれる関係者に、感謝の気持ちを伝えして魔物退治敗戦記を終える。

おかじょうきの皆さん
ありがとうーごしー!

十和田たてがみ川柳会六月句会

○日時 令和8年6月6日(土)
○会場 十和田労働福祉会館
○参加者 木村奈生美・佐藤まさあき・白山修治・
瀧尻善英・千葉ゆり子・村上昌子・高田幸柳
○投句者 城後朱美・福田芳記

■席題『税金』 高田 幸柳 選

【平抜き】

田植え終え納税できる秋へ夢
消費税ゼロにするって今でしょう
税金の行方が見えぬ闇の中
血税はどこへ窪んだ道の愚痴
支払いの税金が知る民の愚痴
競輪競馬 俺は国家の納税者
金持ちになつて税金払いたい

【秀逸】

一円を探す財布の消費税
瀧尻 善英

■宿題『贅沢』 村上 昌子 選

【平抜き】

回転寿し贅沢処庶民には
お腹空いてないとは贅沢なこと
無になつてひととき足湯ひとり占め
質素でも贅沢あつた良き時代
天下りしながら退職金貰い
贅沢は敵だ今では死語となり
おしやれして主婦を忘れるカフェテラス
贅沢が贅沢でないお金持ち
タワマンに住んでるだけで贅沢よ

【秀逸】

贅沢の基準を下げる時が来た
松茸の御飯 煌めく雲丹・鮑

【特選】

ささやかな贅沢を焼く初サンマ
佐藤まさあき

選挙前 矢鱈減税まくし立て 佐藤まさあき

【特選】

出土した木簡にある税の文字 瀧尻 善英

■席題『税金』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

田植え終え納税できる秋へ夢
消費税ゼロにするって今でしょう
支払いの税金が知る民の愚痴
減税の裏に実質 増税が
1パーセント言わず無税の食料品
金持ちになつて税金払いたい
選挙前 矢鱈減税まくし立て

【秀逸】

税金の行方が見えぬ闇の中
まっすぐに税を納めて胸を張る
木村奈生美
白山 修治

【特選】

税金の「ぜ」の字あたりにある小骨
高田 幸柳

■宿題『整理』 千葉ゆり子 選

【平抜き】

出で行けと大家の地球嫌う武器
身辺を整理してから会いに行く
僕の部屋掃除ロボット動けるぞ
丁重な整理に染みた人情味
整理した机の上で落ち着かぬ
整理してみる人生の善と悪
武勇伝ゴミと化しても捨てきれず
身の整理 無欲の境地振り返る
フォルダーへ愚痴も一緒に整理され

【秀逸】

夜の愚痴 朝に整理しゴミに出す
予約した三途の川の整理券
高田 幸柳

【特選】

自分史を整理し知った恩の数
瀧尻 善英

□ 2026.09.10 『満天の星』第5回誌上川柳大会

【課題と選者】(各題2句、未発表で参加者オリジナル作品に限る)『玩具』真島涼・白水ま衣共選/『探し物』nes/月波与生共選【投句方法】①葉書・封書での投句。(用紙は自由、投句先の住所まで郵送ください)②メールでの投句。(件名に「第5回誌上川柳大会」の記載)いずれの場合も住所、名前、電話番号、メールアドレス(あれば)を明記。③Googleフォームからの投句。(QRコードからアクセスしてください)【投句先】(お問い合わせもこちら)①〒038-0211 青森県南津軽郡大鰐町大鰐川辺11-25 月波与生 ②メール: tukinamiyojyo@gmail.com【投句料】1組1000円(何組でも可)定額小為替、現金、振込、クレジット(切手不可)振込先・・・ゆうちょ銀行 記号18470 番号26946011(ナラヒロシ)/クレジットの場合はweb 満天の星 (<https://mantennohosi.official.ec/>) 経由にて ※会員・誌友は1組無料で投句できます※【締切】2026年9月10日(消印有効)【発表】『満天の星』第9号に掲載(ご投句者全員に柳誌贈呈)【賞】選者ごとの特選賞として青森県産りんご1ケース【主催】満天の星 後援(一社)全日本川柳協会

□ 2026.09.30 第47回神戸川柳大会(誌上大会)

【兼題】(各題1句 未発表句に限る、重複投句不可)『板』赤井花城(神戸市)・真島久美子(佐賀県)共選/『レシピ』田中新一(大阪府)・雫石隆子(宮城県)共選/『練る』小島蘭幸(広島県)・岡田篤(加古川市)共選【応募要項】・応募用紙、原稿用紙、または便箋1枚に各題ごと作品1句を列記 ・郵便番号、住所、電話番号、名前(雅号)、所属柳社等を記入【投句料】1,000円(定額小為替等)【賞】各題の特選1句、準特選2句に謹呈【締切】令和8年9月30日(水)当日消印有効【連絡先】岡田篤 079-422-8601【投句先】〒675-0019 兵庫県加古川市野口町水足1160 岡田篤 宛

句会・大会情報をお寄せください。

■宿題『センター』 互選

- | | |
|------------------|--------|
| ①顔見えぬコールセンター見抜く情 | 木村奈生美 |
| ①雀の子センターめざし大空へ | 高田 幸柳 |
| ②センターに家族写真の母が居る | 佐藤まさあき |
| ②受験生センター点で夢かなう | 福田 芳記 |
| ④ど真ん中射抜かれ速くなる呼吸 | 千葉ゆり子 |
| ④正論の直球 胸のど真ん中 | 瀧尻 善英 |

◆十和田たてがみ川柳会8月句会案内◆

【時】8月29日(土)午前10時から【所】十和田労働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『大器晩成』・高田幸柳選/『ダブル』・木村奈生美選【互選】(一句詠)『だんだん』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入)【席題】『当日発表』(三句詠・共選)選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛



■会費拝受【6月受付分】

工藤比呂美（青森県）

おかじょうき川柳社は年会費 4,000 円です！

会員はすべての投句料が無料になります。

会員登録はこちらのフォームから申し込みください。

→振込先：ゆうちょ銀行 口座No. 02280-6-43112

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

終着駅 Sin

◆「川柳ステーション 2026」にご参加いただいた皆様、ありがとうございます！おかげさまで無事に終えることができました（汗）。特別企画「樋口由紀子大好き柳人」に出演していただいた広瀬ちえみさんをはじめ、妹尾凜さん、兵頭全郎さんには、素晴らしいプレゼンをしていただき、本当にありがとうございました。御三方の由紀子さんに対する愛情がひしひしと伝わり、とても賑やかで楽しい法事になったと思います。また、会場には来られなくても、「樋口由紀子の珠玉の一句」に投票してくださった皆様にも感謝申し上げます。皆様のご協力のおかげで、とてもいい大会になりました。感謝◆ちょっと話は変わって、サッカー W 杯はスペインの優勝で幕を閉じた。決勝戦では延長を含めた 120 分間、アルゼンチンは枠内シュート 0 本という、スペインの圧勝劇だった。「優勝」を目標に掲げた日本も、決勝トーナメント 1 回戦

でブラジルに逆転負けを喫したが、それでも日本は本当に強くなったと思う。ただ、その「目線」が高くなったからこそ、改めて気づく強豪国の強さの「奥深さ」がある。それは、これまでの自分たちの立ち位置では見えなかった世界であり、レベルが上がったからこそ初めて見えてくる景色なのだと思う◆そういう意味では、樋口由紀子作品の「奥深さ」も、ぱっと読んだだけではわかりにくいかもしれない。しかし、川柳を作り続けているうちに、かつて「わからなかった作品」の凄さや奥深さに、ふと気づく瞬間がある。それはきっと、あなたの川柳を見る「目線」が上がったということなのだろう。そして、その目線で創作を始めると、今度はさらに高い壁にぶつかり、また悩み、また苦しむ。それでも、その壁を越えようともがき続けるしかない。サッカーも川柳も、そしてきっと、どんな世界でも同じなのだと思う◆Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2026.08.01 おかじょうき川柳社本社 8 月句会

【日時】令和 8 年 8 月 1 日（土）午後 2 時～【所】アウガ 5 階小会議室【欠席投句締切】7 月 31 日（金）15 時【宿題】（各題 3 句詠）『夜景』・『黄』・『自由詠』【席題】（1 題 3 句詠・2 人共選）。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選 1 句『地下鉄』【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moritakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2026.08.19 『川柳吟行会ぼ』吟行句会

【合評日時】令和 8 年 8 月 19 日（第 3 水）14 時～【合評場所】青森駅前アウガ 5 階【吟行場所】アート展覧会『動き出す浮世絵展』（東奥日報新町ビル 7/11～8/30 開催・10 時～・当日券 1,800 円）【参加費】100 円 ※会員以外の方も参加可

□ 2025.8.20 ✕ おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5 句

【締切】8 月 20 日必着【提出】雑詠 5 句、お気に入り 1 句（最新号からお好きな作品 1 句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】10/1 発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moritakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2026.09.05 おかじょうき川柳社本社 9 月句会

【日時】令和 8 年 9 月 5 日（土）午後 2 時～【所】アウガ 5 階小会議室【欠席投句締切】9 月 4 日（金）15 時【宿題】（各題 3 句詠）『郵便』・『食』・『自由詠』【席題】（1 題 3 句詠・2 人共選）。選者は当日の参加者より選出【川柳 ラボ】互選 1 句『台風』【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moritakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2026.09.12 『川柳吟行会ぼ』吟行句会

【合評日時】令和 8 年 9 月 12 日（㊦第 2 土）14 時～【合評場所】青森駅前アウガ 5 階【吟行場所】青森市合浦公園内『時の市』（10 時～・合評時間までに各自自由に吟行）※雨の場合は「時の市」中止の可能性あり、その場合はアウガで題詠で合評句会【参加費】100 円 ※会員以外の方も参加可

2026年8月1日発行（年12回発行）第31巻8号通巻389号
●発行人／むさし●編集／Sin●発行／おかじょうき川柳社●表紙題字／金子榮風
青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3 ●E-Mail:info@okajoki.com

第31回
杉野十佐一賞
作品募集

課題／締切

「糸」（2句詠）／2026.9.30 ✕

選者

なかはら れいこ（岐阜県／「ねじまき句会」所属）

湊 圭伍（愛媛県／「川柳スパイラル」同人）

八上 桐子（兵庫県／「ねじまき句会」・「文鳥の会」・「エミューの会」所属）

米山明日歌（静岡県／「おかじょうき川柳社」・「ねじまき句会」所属）

木下香苗（滋賀県／第30回杉野十佐一賞大賞受賞者）

Sin（青森県／おかじょうき川柳社）

投句料（おかじょうき川柳社会員は無料）

1,000円（発表誌をもって投句料領収したものとさせていただきます／締切日
まで投句料が入金された場合のみ作品を受け付けます）

振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

応募方法 ※郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

フォームから投句する

↑「作品応募フォーム」から必要事項を記入して送信してください。「投
句応募フォーム」はおかじょうき川柳社ウェブサイトからでもアクセス
できます。

うまくいかない方は、右の「メール
で問い合わせる」から、メールでお
問い合わせください。

メールで問い合わせる

発表

月刊おかじょうき 2027年1月号の誌上において発表。

サイト掲載：2027年1月中旬

賞

上位入賞者に青森県特産品を贈呈。

諸権利について

著作権は作者に帰属しますが、出版権、雑誌掲載権など、作品を自
由に利用できる権利は、おかじょうき川柳社に帰属します。

その他注意事項

※作品は応募者の自作で未発表のものに限ります。※応募された原稿に関するお問い合
せや、審査結果の問い合わせには応じられません。※個人情報については、許可なく他
の目的で使用することはありません。